

平成 25 年 2 月 7 日

各 位

会 社 名 フューチャーアーキテクト株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証第一部)
問合せ先 執行役員 中島 由彦
(TEL (03) 5740 - 5724)

平成 24 年 12 月期 連結業績のお知らせ

1. 平成 24 年 12 月期連結業績について：

当社グループの当連結会計年度の連結業績は、

売上高	23,353百万円	(前期比	0.3%増)
営業利益	1,935百万円	(前期比	34.0%減)
経常利益	2,057百万円	(前期比	32.6%減)
当期純利益	1,167百万円	(前期比	31.9%減)

となりました。

当連結会計年度は、上半期において大型プロジェクトが完了し、新規プロジェクトへの移行時期でありましたが、複数の大規模プロジェクトを受注したほか、流通業・サービス業に加えて金融業・製造業の新規顧客を獲得しました。さらに、東南アジア子会社やヘルスケア関連などの新規事業が寄与したことにより、売上高は前年度を上回りました。一方、一部の案件においての品質向上コストの増加やプロジェクトの遅延があったこと、および東南アジアの展開や新規事業の立ち上げに関わる費用が増加したことにより、利益面では前年度を下回りました。

なお、積極的に顧客の獲得を推進したことにより、当連結会計年度末の受注残高は7,560百万円となり、前連結会計年度末の4,748百万円より大幅に増加しております。

各セグメントの業績については以下のとおりです。なお、文中のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

(1) ITコンサルティング事業

業務改革を伴うITシステム刷新・統合に関する大規模プロジェクトを複数受注し、金融・製造業の分野での多数の新規顧客の中規模プロジェクトも開始できました。

また、既存のコンポーネントを活用した、eコマースインフラ基盤の短期構築など新しい取り組みが増加したほか、金融クラウド、付加価値の高いアウトソーシング、グローバルERPといった新たな戦略分野として推進しているサービスで成果が出始めております。一方、一部の既存案件において品質向上コストの増加やプロジェクトの遅延が発生したことにより、利益率が低下しました。

東南アジアにおきましては、マレーシア子会社は順調に成長し、通期で黒字となったものの、シンガポール・タイ子会社は顧客獲得が見込よりも遅れたため、プロモーションコストが先行しました。

その結果、売上高は14,843百万円（前連結会計年度比1.5%増）、営業利益は1,745百万円（同32.1%減）となりました。

（２）パッケージ&サービス事業

株式会社アセンディアは、地方拠点での開発・運用サービスが本格化したほか、公共関連のプロジェクトも順調に推移し、年間を通じて安定的な業績を確保しました。

他方、Future One 株式会社は、下半期は前年同期を上回る業績であったものの、第1四半期における一部プロジェクトの採算悪化のために通期では減益となりました。

その結果、売上高は4,389百万円（前連結会計年度比2.4%減）、営業利益は279百万円（同16.3%減）となりました。

（３）企業活性化事業

食品スーパーを営む株式会社魚栄商店において、これまで進めてきた自動発注やEDIシステムの導入などのITの利活用等の施策や、効率的な広告戦略による販売管理費の抑制もあり、売上高は4,439百万円（前連結会計年度比2.5%減）、営業利益は29百万円（同6.9%減）となり、2期連続の通期営業黒字となっております。

（４）その他

平成24年1月末に雑誌「東京カレンダー」を含むメディアサービス事業を会社分割により取得し、ウェブサイトのリニューアルを行うなどインターネットサービスへの展開を推進した結果、11月および12月は月次黒字を達成したものの、初期の赤字を挽回するには至りませんでした。

なお、平成24年12月期末を基準とする配当は、1株当たり750円を予定しており、既に実施している中間配当と合わせ、**1株当たり年間1,500円**となる予定です。

2. 平成25年12月期業績予想について：

当社グループの平成25年12月期の連結業績は、

売上高	25,700百万円	（前期比10.0%増）
営業利益	3,200百万円	（前期比65.4%増）
経常利益	3,250百万円	（前期比57.9%増）
当期純利益	1,800百万円	（前期比54.1%増）

を見込んでおります。各事業分野の特記事項は次の通りです。

(1) I Tコンサルティング事業

①コアビジネス領域

企業再編・企業統合の流れを受け、業務改革を伴うI Tの刷新・統合、I Tコストの大幅な低減の重要性が再認識されております。こういった中、経営のリアルタイム化を顧客に提供するという当社のコアビジネス領域において、複数の新たな顧客のプロジェクトが開始されており、これらを確実に成功に導いていくことが重要であると考えております。

②新サービス領域

クラウドサービス、VAO（付加価値の高いアウトソーシング）、大企業向けグローバルE R Pといった新たなサービス領域について、既に複数の顧客を獲得しておりますが、さらに一層のサービス展開の拡大を図ってまいります。また、証券・F X取引会社等の新たな顧客層に関する実績を今後同業界に横展開することにより受注の拡大を図ってまいります。

ヘルスケア分野の新規事業についても、次年度はクラウドによる電子カルテの提供等の本格的な展開を図ってまいります。

③品質向上

プロジェクトの活動状況を監視し、早期に問題を発見するシステムを社内で開発し、下半期から利用を開始しております。今後は当システムを有効活用してプロジェクトの品質管理を徹底し、利益率の向上を図ります。

④海外ビジネス

東南アジアにおいては、グローバルなE R Pベンダーとのパートナーシップをさらに強化するとともに、既に黒字化しているマレーシア子会社の開発能力をシンガポールやタイの子会社の営業力と結びつけることにより、現地の大企業からの受注を拡大し、早期の黒字化を実現させてまいります。加えて、アジア地域に進出する日本企業のI T支援についても拡大させていきます。

(2) パッケージ&サービス事業

F u t u r e O n e株式会社において、直接営業の強化や新規販売チャネル開拓を継続しながら、自社製品のバージョンアップ、ニーズの高い機能拡充を通じて受注の拡大に努めます。また、既に導入済みの当社のプロジェクト管理ツールを活用してプロジェクトの損益管理を強化していきます。

株式会社アセンディアにおいては、当社との連携強化・ノウハウ共有によって技術力の向上を図るとともに、公共関連ビジネスやニアショアビジネス（国内の地方拠点での運用保守・開発等）の一層の拡大を図ってまいります。

(3) 企業活性化事業

企業活性化事業については、株式会社魚栄商店において、顧客マーケティングから商品の仕入、販売、在庫の管理に至るまで、ITを活用した改革を継続的に実行してまいります。

なお、平成25年12月期の配当は、1株当たり1,500円（うち中間配当750円）を予定しております。

(参考：平成25年12月期業績予想および前期比)

	平成24年12月期 実績	平成25年12月期 予想	前期比
売上高	23,353百万円	25,700百万円	10.0%増
営業利益	1,935百万円	3,200百万円	65.4%増
経常利益	2,057百万円	3,250百万円	57.9%増
当期純利益	1,163百万円	1,800百万円	54.1%増
一株当たり当期純利益	2,579.16円	3,997.94円	+1,418.78円
一株当たり配当金	1,500円	1,500円	—

以上

●本件に関するお問い合わせ先：

フューチャーアーキテクト株式会社 IR担当 池内

IR直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp